

「かたりべDVD」と「焼け跡に立つ虹」を用いて平和について考えを深める ～「平和新聞」の作成を通して～

1 対象学年 中学3年生

2 ねらい

世界に目を向ければ、依然紛争や内戦は後を絶たない。国内では戦後71年が経過し、実際に戦争を体験した人は少なくなっている。戦争は自分には関係のない出来事であると感じ、戦争の悲惨さは日本人の記憶から薄れつつある。また、安全保障関連法の施行により、憲法解釈の変更や法律の改正をめざす動きがさらに加速し、平和を脅かしかねない事態へと進んでいくことが危惧される。このような時だからこそ、子どもたちの平和に対する意識を高め、知識を深める取り組みをしていく必要がある。

そこで、「焼け跡に立つ虹」と「かたりべDVD（2016年版）」の2つの資料を用いた学習を行う。「焼け跡に立つ虹」は、実際に愛知県で戦争の体験をした方々の生の声が掲載されている。多くの人が慣れ親しんでいる地名や建物等も記されているため、子どもたちにとって戦争の悲惨さを実感するのにとても有効である。また、「かたりべDVD（2016年版）」は、被爆者の8歳のころの被爆体験を聞くことができる貴重な資料である。このDVDには全ての言葉に字幕が入っているのも使いやすい点である。

中学校3年生という義務教育の最高学年として身につけてほしいのは、「平和」について自ら考え、行動ができる力である。これらの資料等を用いて、調べ学習を行い、新聞にまとめる活動を通して、平和の大切さについて考えを深めさせたい。

3 指導の流れ

(1) 準備

読み物資料「焼け跡に立つ虹」 かたりべDVD（2016年版） 原爆投下後の広島の写真

読み物資料「焼け跡に立つ虹」

① 「電柱から血が」（P.16～P.20）

- ・ 子どもの視点から、防空壕等の空襲への備えや、実際の空襲の恐ろしさについて、描いた作品。

② 「銃後の苦しかった生活」（P.118～P.124）

- ・ 銃後（戦場に行っていない国民）がどのような生活だったのか、配給制や点数制度、学校生活の様子等について、わかりやすく語られている作品。

③ 愛知県下の主な空襲（P.229～P.233）※『空襲の記録』（中日新聞社）からの引用

著・出版 愛知県教員組合



(2) 指導計画（3時間完了）

第1時

| 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 |
|-----|--|---|
| 3分 | 1 原爆投下後の広島の写真を見る。 | ○ 写真を見て感じたことを何人かに発表させる。 |
| 2分 | 2 戦争について「知る」ことが、戦争を起こさない平和な世界を作るために必要であることを知る。 | ○ 同時に、調べたことを他クラスの子どもたちにも伝えるために、「はがき新聞」にまとめ、廊下に掲示することを伝える。 |
| 17分 | 3 かたりべDVDを視聴する。 | ○ DVDは、原爆が落ちたエピソードの部分を選択して、15分程度視聴させる。 |
| 8分 | 4 視聴した感想を書く。 | ○ これまでに知っていた自分の知識等と照らし合わせて書くとよいことを伝える。 |

| | | |
|-----|-----------------------------|---|
| 12分 | 5 「電柱から血が」と「銃後の苦しかった生活」を読む。 | ○ 難しい言葉や、理解がしにくい部分については、適宜解説を加えながら範読する。 |
| 8分 | 6 読んだ感想を書く。 | ○ 新しく知ったこと、人に伝えたいと感じたこと等を書くことよいことを伝える。 ○ 次回から調べ学習を行うため、必要な資料があれば、探して持ってくるように伝える。 |

第2時

| 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 |
|-----|---|--|
| 10分 | 1 はがき新聞の書き方を知る。 | ○ 下書き原稿を書き、その後はがき新聞にまとめること、逆三角形の構成（「結論」が先にくる構成のこと。トップ記事が最も重要。続いてセカンド、サード記事となる）等を指導する。 |
| 40分 | 2 調べ学習を行い、調べたことを下書き原稿にまとめる。  【調べ学習をする様子】 | ○ テーマを絞って調べるように伝える。例えば、「原爆について」「愛知県の空襲について」「戦時中の生活について」等。 ○ 「焼け跡に立つ虹」に掲載されている「愛知県下の主な空襲」の資料も配布し、前回の2つの話と同様に資料として活用してよいことを伝える。 ○ コンピュータ室を活用し、「かたりべDVD」の動画データを、コンピュータ室の共有サーバーに保存しておき、子どもたちがいつでも、どの部分からでも視聴できるようにしておく。 ○ インターネットでも調べることができるようにする。必ず発信者の確認ができるもの、複数の資料を当たること、できれば合わせて書物から根拠を探すこと、等も指導する。 ○ 司書教諭と連携し、あらかじめ図書室から戦争に関する本を何冊も借りておくことで、学習時間を確保する。合わせて、同校の教員が持っている「焼け跡に立つ虹」を何冊か借りておき、それらも資料として活用させる。 |

第3時

| 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 |
|-----|---------------------------|--|
| 5分 | 1 下書き原稿をもとに、見出しやタイトルを考える。 | ○ 「知る」ことが大切だという観点から、情報を伝えたい他クラスの中学生の興味を引くために、見出しやタイトルを工夫させる。 |
| 40分 | 2 はがき新聞にまとめる。 | ○ 記事や資料写真、イラスト等のレイアウトにも工夫をさせる。 |
| 5分 | 3 調べ、まとめたことへの感想を書く。 | ○ 何人かに感想を発表させ、平和への意識を高め、二度と戦争を起こしてはいけないという気持ちをもたせる。 |

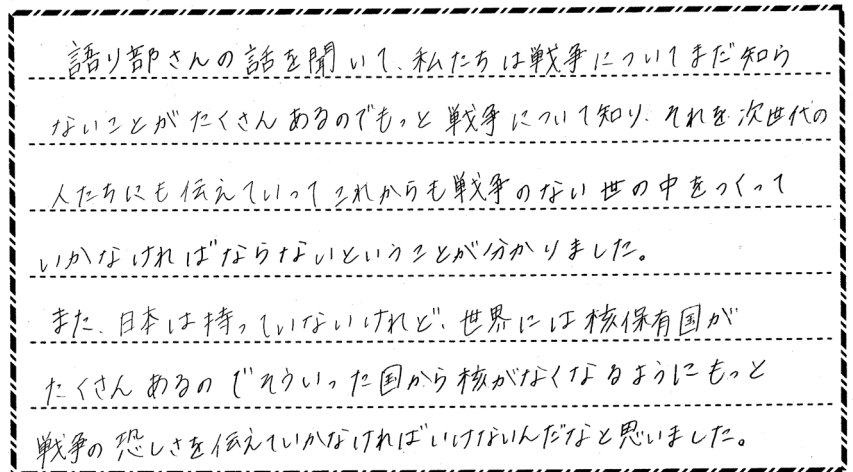
4 実践のまとめ

(1) かたりべDVDを視聴する

中学校3年生の子どもたちにとって、戦争は「知らないこと」ではなく、これまでにも学習してきたことである。

しかし、目の前で実際に被爆した体験について語られると、それはこれまでの想像を遙かに超えるものであったようである。

2016年度版のかたりべDVDは、全編に字幕が入っていたのでわかりやすく、子どもたちは食い入るように映像を見つめていた。上は子どもの感想である。



【「かたりべDVD」を視聴した感想】

(2) 資料「焼け跡に立つ虹」を読む

「焼け跡に立つ虹」は「かたりべDVD」と同様に、たいへん「力のある資料」といえる。

そのため、1つの話に時間をかけて取り扱うことで深めることもできるのだが、今回は自ら調べ、平和について考えを深めるため、あえて複数の資料を短い時間で提示するようにした。

難しい言葉や時代背景については、適宜解説を加えながら範読した。名古屋での空襲の様子、当時の学校生活や家庭生活について理解しようと、真剣に資料にむかう子どもたちの姿を見ることができた。



【「焼け跡に立つ虹」を熱心に読む様子】

(3) 自分で調べる

最終的に、はがきサイズの新聞にまとめるため、何か1つにテーマを絞って調べるように伝えた。例えば、「原爆について」「愛知県の空襲について」「戦時中の生活について」等である。

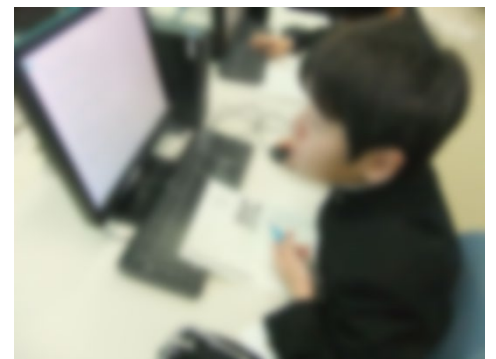
コンピュータ室を活用し、「かたりべDVD」の動画データを、コンピュータ室の共有サーバーに保存しておき、子どもたちがいつでも、どの部分からでも視聴できるようにしておいた。

インターネットでも調べることができるようにしたが、その際、必ず発信者の確認ができるもの、複数の資料を当てること、できれば合わせて書物から根拠を探すこと、等も指導した。

さらに、司書教諭と連携し、あらかじめ図書室から戦争に関する本を20冊程借りておくことで、探す手間を無くし、学習時間を確保した。同校の教員が持っている「焼け跡に立つ虹」も用意し、それらも資料とした。

子どもたちは真剣な様子で調べていた。調べていると、「愛知にもこんなに空襲があったんだ」や「おばあちゃんにこの話は聞いたことがあるかもしれない。よく覚えていないから、次に会うときに聞いてみよう」等の声が聞こえてきた。

「名古屋大空襲」という言葉を調べた子どもたちも多くおり、その子どもたちには「焼け跡に立つ虹」から参考になる話（「初めて名古屋に空襲があった日」や「昭和二十年三月十九日、名古屋大空襲」）をコピーして渡し、資料として活用させた。



【「焼け跡に立つ虹」と比べながら調べる子どもの様子】

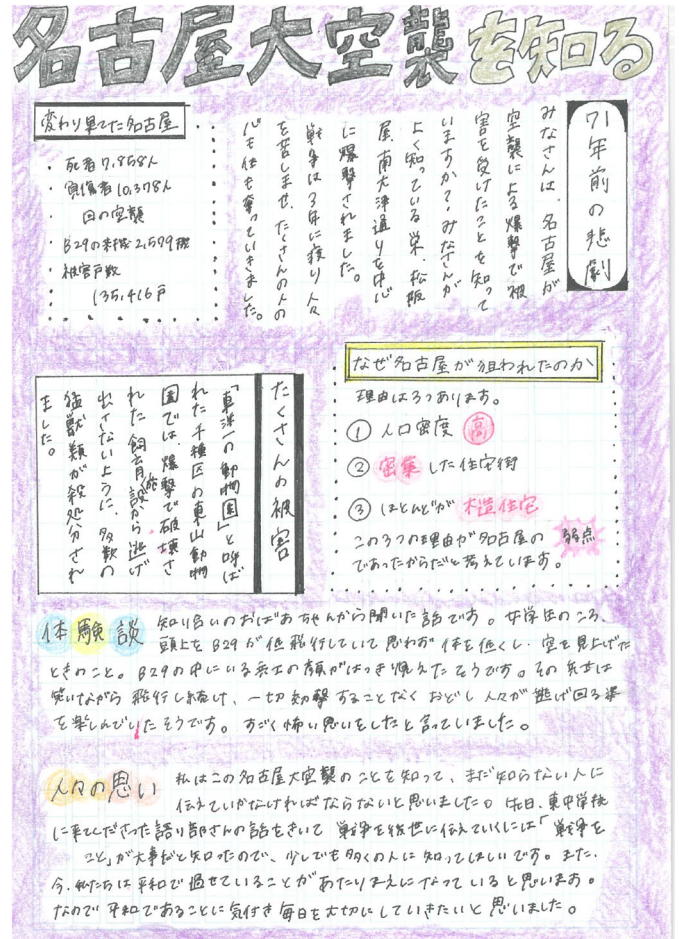
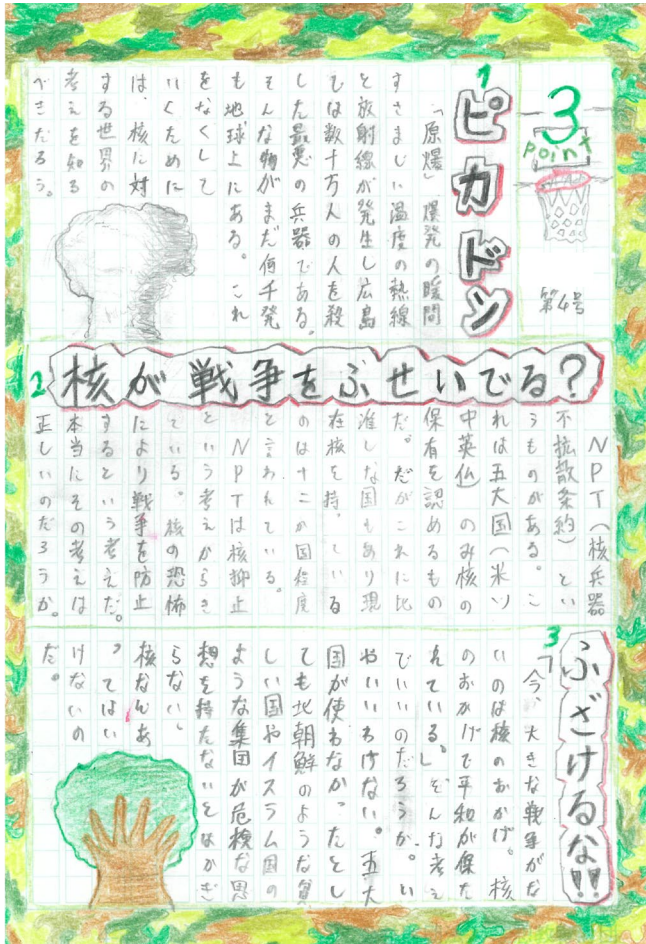
(4) はがき新聞にまとめる



【はがき新聞を書く様子】

「知る」ことが大切、つまり他クラスの生徒に「伝えることが大切」という観点から、情報を伝えたい他クラスの中学生の興味を引くために、見出しやタイトルを工夫させた。

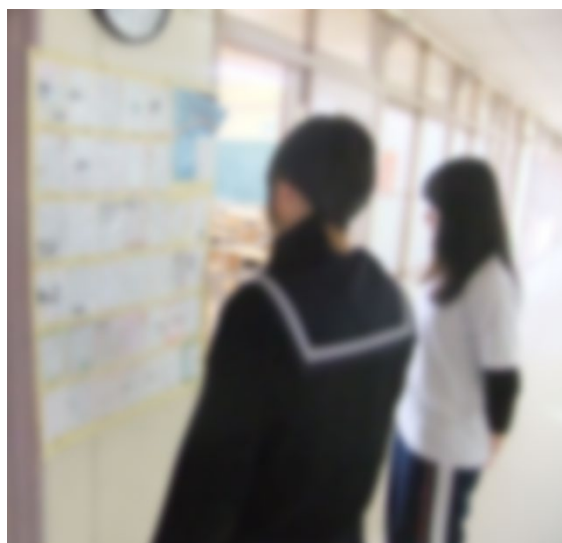
また、新聞を読んでもらうために、読者が全文を読み通す余裕がなくても最初の部分だけで記事の全貌がつかめるように、「逆三角形の構成」で記事を書かせた。下が実際の作品の一部である。



【完成したはがき新聞の例】



【1つにまとめられたはがき新聞】



【廊下に掲示してある掲示を見ている様子】

完成した作品は1つにまとめ、廊下に掲示し、いつでも誰でも読めるようにした。実践を行ったクラスだけではなく、他クラスの生徒も見に来ており、多くの生徒の興味を引くことができた。

5 実践の成果と今後の課題

成果として4点挙げられる。①短い時間で、自分の考えをまとめさせることができた。②複数の資料にあたることで、より深く平和について考えさせることができた。③自分で調べ、考えたことをまとめる段階を作ったことで、より子どもたちが「自分には関係のない出来事」と思っていることから脱却することができた。④他クラスの子どもたちにも見える形で掲示をすることで、さまざまな視点をもつことができた。

一方、今後の課題として、書き上げたはがき新聞についてはグループや学級で発表会を行い、発信・交流の活動につなげることもできる。それらを行うことにより、他者の考えを知り、より平和についての考えを深めることができると考えられる。

また、高まった平和への意識をいかに継続させるか、ということも大きな課題である。平和学習は、継続的に行ってこそ価値の生まれるものだと思う。自分を大切にし、同時に他者の考えも尊重することができる子どもたちを育てるためにも、平和について考える機会を多く与えていかなくてはならない。そのためにも、わたくし自身がしっかりと平和について学び続けていきたい。